

第3学年 道徳科学習指導案

1 主題名 守りたい日本の文化

2 教材名 「ふろしき」(日本文教出版)

内容項目 D—1 7 (伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値や指導内容について

本主題で中心となる道徳的価値は、学習指導要領のD—1 7【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】で、第3・4学年において【我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。】となっている。

我が国には、我々日本人が誇るべき伝統や文化というもの数が数多く存在する。着物や和食など、長い間受け継がれ、外国人の心を惹き付ける魅力溢れるものも多い。しかし、生活の便利さと引き換えに、扇子や風呂敷など、そのよさや魅力を手放してきた一面もある。安さや手軽さを重要視すれば、一つのを長く使い続けたり自分たちの生活の在り方を工夫したりする考えにはつながらない。逆に、日本の伝統と文化を尊重することは、よさを発見し、物を大事に使ったり、自然と共に生きる方法を探ったりすることにもつながる。現在のものと比べて、手軽さや便利さといった面に偏りがちな価値観を捉え直す機会となるようにしたい。また、国際社会においては、外国の人々や文化に関心を持ち、お互いに理解し合っていくことが望まれる。それらを理解するには、まず、昔から現在に育まれた我が国や郷土の伝統と文化に興味・関心をもつことから始まる。そして、それらと今の自分がどのように関わっているのかを考えることによって理解し、国や郷土を愛する心へとつながる。

そこで本主題を通して、身近にある扇子や風呂敷、浴衣などを扱い、日本の伝統や文化を意識させていきたい。古くから、そのよさの故に受け継がれ、風土に根ざして発展してきた文化や伝統が身近にたくさんあることに気付かせたい。日本の伝統と文化について理解を深めたり、様々な活動を通して関心を持たせたりして、親しむ気持ちを高めさせるために本主題を設定した。

(2) 教材について

本教材は、風呂敷を題材として取り上げている。主人公の「ゆう子」が、きれいな布を見つけ、風呂敷であると知り、母から話を聞いたり品物の包み方を教わったりして、風呂敷のよさを知るというものである。風呂敷は、ひと昔前までは日常的に使われていて、珍しいものではなかった。しかし最近ではあまり見かけず、失われていく日本の伝統文化の一つと言える。最近では使われることが少なくなってきた風呂敷を使って、実際の包み方を見せたり、児童に実際に包む体験をさせたりすることにより、母の実演会に思わず声をあげるゆう子の気持ちに共感させたい。さらに、「さっそく友だちにもふろしきのよさを教えてあげて、もっといろいろな使い方ができないかを、みんなで話し合ってみようと思います。」と思うゆう子の気持ちから、文化の継承と発展についても触れられるよい教材である。

〈教師の願い〉

○郷土から視野を広げて、日本の伝統と文化を知り、様々な活動を通して伝統と文化に関心を持ち、親しむ心を育てたい。

事前

道徳『『おもてなし』ってなあに』

○日本に「おもてなし」の伝統や文化があることを知り、日本の文化のすばらしさを大切にしていこうという心情を養う。

道徳「同じ小学校でも」

○外国の学校との違いや外国と日本のつながりに気づき、外国に親しみを感じ、もっとしりたいとい実践意欲を高める。

総合「千葉市をしようかいしよう！」

○千葉市について理解を深め、千葉市の施設や歴史的建造物、行事やプロスポーツチームなどについて興味をもつ。

本時

道徳「ふるしき」

○日本の伝統や文化のよさに気づき、それらを継承していこうとする心情を養う。

事後

社会「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」

○くらしの中で使われていた道具の変化を手掛かりに、市や人々の生活の様子を捉えることができる。

国語（書写）「書きぞめ（友だち、正月）」

○正月の行事に関心を持つ。心を込めて書き初めをする。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

○日本の伝統と文化のよさに気づき、それらを継承していこうとする心情を養う。

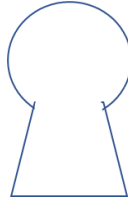
(2) 展開

※□評価

過程	学習活動と内容（◎主発問）	教師の指導・支援
導入 5分	1 日本の伝統文化について話し合う。 ○日本の伝統文化には何がありますか。また、それを使った時、どのような気持ちでしたか。 ・浴衣を着て、お祭りに行った時楽しかった。 ・和食を食べてとても美味しかった。 ・着物を着た時に、暑かったけれど特別な感じがした。	○児童の経験をもとに、日本の伝統文化について取り上げる。 ○着物や浴衣など日本の伝統文化があるにもかかわらず、身近には見られないことに気付かせ、指導内容へ方向付ける。
	日本の伝とう文化をまもるためには、どんな心（気持ち）が大切か考えよう。	
展開 前半 20分	2 教材「ふろしき」を読み、話し合う。 ○たんすを開けて、ふろしきを見つけた時、「わたし」はどのような気持ちだったのでしょうか。 ・この布は何だろう。 ・きれいな布だな。 ◎次々と色々な形の物を包んでいくふろしきを見たり、触ったりして、「わたし」はどんなことを思ったのでしょうか。 ・色々な形のものを包めてすごい。誰かに教えてあげたいな。 ・こんな便利なものがあったなんて知らなかった。守っていききたいな。 ・手触りが気持ちいいし、持ちやすいし、たくさん包める。 ○「わたし」は、どんな気持ちから、ふろしきのよさを友達に話したいと思ったのでしょうか。 ・今は、あまり使われていないけれど、色々な形のものを包めてすごいから広めたい。 ・包むこと以外にも、肩や膝にかけられる優れたもので驚いた。	○教材を通して、日本の伝統文化について深く考えられるように、事前に教材を読ませておく。 ○心情の変化に気付かせるため、場面を2つに分ける。 ○深く考えさせるために、赤と青の心情ハート、心の顔など図を使って視覚化する。 ○登場人物の気持ちを考えることが困難な児童には、「もし、自分が『わたし』だったらどんな気持ちかな。」と声をかける。 ○「わたし」の気持ちにより共感できるよう、風呂敷で包んでいるところを実演したり、実際に風呂敷を使わせたりして、動作化する。 ○多面的・多角的に考えさせるため、「どうしてお母さんは、わたしにふろしきの包み方を丁寧に教えてくれたのだろう。」と問い、お母さんの心情も考えさせる。 ○主人公の心の変容について深く考えさせるために、2つの場面を見比べて考えさせたり、心のレベルや心のドームなど図を使って視覚化したりする。 ○日本らしいものを伝えていくことのよさを感じさせるために、「お母さんはなぜふろしきの包み方をこんなに知っているのか。」や「今日知ったふろしきのよさを誰に伝えたいか。」など、問い返す。
展開 後半	3 自らの生活を振り返る。 ○日本伝統文化コーナーにあるものには、どのようなよさや工夫があるのか話し合ってみよう。	○風呂敷のよさだけではなく、他にも日本の昔からあるものが今もあり、それらを守り伝えていきたいという心情を高めさせるため、日本伝統文化コーナーにある

15分	・扇風機は電池がいるけれど、扇子はいらないからいつでも使える。 ・扇子は小さく折りたためるから、荷物が多い時でも便利。 ・浴衣は、長さが調節できるように工夫されている。 ○日本の伝統文化を守り続けるためにはどのような心（気持ち）が大切ですか。 ・なんだろうと思う心。（興味） ・昔の人の気持ちを考える心。 ・伝えようとする心。	ものの、よさや工夫について話し合わせる。さらに物は違うけれど、便利に工夫されたり、昔の人の思いが込められていたりすることは同じだと気付かせる。 ○日常生活の中にも、日本らしいものがたくさんあることに気付かせつつ、それらを守り続けようとする気持ちと結び付けられるように、具体的な例を出す。
終末5分	4 本時の学習を振り返る。 ○学習の感想を書く。 ・今までは日本らしいものに興味がなかったけれど、これからたくさん興味をもって探して、伝えていきたい。 ・たくさん日本らしいものがあつたので、守っていききたいし、たくさん使っていきたい。	□日本の伝統と文化のよさに気付き、それらを継承していこうとする心情が高まったか。（ワークシート・発表） ○本時の学習を通して、学んだことや考えたこと、改めて分かったことをワークシートに書かせる。

6 板書計画

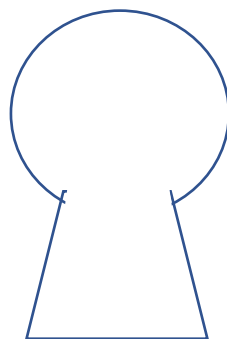
日本の伝とう文化をまもるためには、どんな心（気持ち）が大切か考えよう。		
日本の伝とう文化 ・わ食 ・着物 ・ゆかた ・おもてなしの心 ・ふろしき なんだろうと思う心 昔の人の気持ちを考える心 伝えようとする心	たんすを開けて、 ふろしきを見つけた時 ・このぬの、何だろう。 ・何に使うのだろう。 ・すごくきれいな、ぬのだなあ。  わたし	次つぎといろいろな形の物をつつんでいく ふろしきを見たり、さわったりした時 ・色々な形のものを包めてすごい。誰かに教えてあげたいな。 ・こんな便利なものがあつたなんて知らなかった。守っていききたいな。 ・手触りが気持ちいいし、持ちやすいし、たくさん包める。  わたし

学

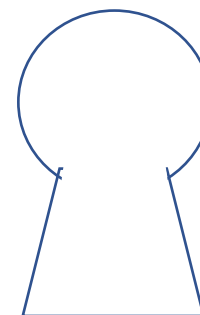
ためには、どんな心(気持ち)が大切か考えよう。

たんすを開けて、ふろしきを見つけた時

次つぎといろいろな形の物をつつんでいく
ふろしきを見たり、さわったりした時



わたし



わたし